

## Ⅱ 教育計画 ～ 2 教育課程



### □ 授業時数（週あたり）

※ 学級……T：単一障害学級 C：重複障害学級

	学部	小学部						中学部	高等部
	学年・コース	1年	2年	3年	4年	5年	6年	全学年	全学年
	学級	T・C	T・C	T・C	T・C	T・C	T・C	T・C	T・C
教科別の指導	国語	1.0	2.0	2.5	3.5	4.0	4.0	2.25	2.7
	算数・数学							2.25	
	音楽	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	0.9	0.9
	図画工作・美術	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.5	1.8
	体育・保健体育	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.8	1.8
	職業								1.35
	外国語								0.9
特別の教科「道徳」	※1 各教科等を合わせた指導形態で取扱う								0.45
特別活動	(0.6)	(0.6)	(0.6)	(0.6)	(0.6)	(0.6)	(0.6)	0.9	0.9
自立活動	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	3.3	1.5	2.0
各教科等を合わせた指導	日常生活の指導	17.8	17.8	17.8	17.8	17.8	17.8	14.2	12.0
	遊びの指導	1.0	1.0	1.0	1.0				
	生活単元学習	1.0	1.0	1.5	1.5	3.0	3.6	3.3	2.7
	作業学習							1.5	3.6
総合的な学習の時間							1.5		
総合的な探究の時間								※2 年間で特定の期間に設定	
合計	27.1	28.1	29.1	30.1	31.1	31.7	31.6	31.1	

※1 特別の教科「道徳」の目標及び内容については各教科等を合わせた指導形態で取扱う。

(高等部における特別の教科「道徳」については、時間における指導と各教科等を合わせた指導形態で取扱う。)

※2 高等部の「総合的な探究の時間」は、年間で特定の期間に 35 時間設定する。

※3 小学部の 1 単位時間は、45 分、中学部と高等部の 1 単位時間は 50 分とする。

※4 小学部の「特別活動」は、週あたりではなく、月に 1 回 (30 分) の設定のため (0.6) と表記している。

### □ 教育課程の特色

本校は、知的障害のある児童生徒を対象とした特別支援学校で、小学部・中学部及び高等部の 3 学部で構成されている。「たくましい力 ゆたかな心」を教育目標とし、卒業後、社会の一員としてそれぞれの場で安定した社会生活を営むことができる児童生徒の姿を目指している。指導と評価の一体化を図り、系統性・一貫性・発展性のある教育課程を編成し、一人一人の児童生徒のニーズに応じた教育を行うことを目指している。

#### <小学部の教育>

- ・就学から卒業までの 6 年間を見通した段階的な教育課程を編成している。
- ・生活リズムの確立と情緒的な安定を図るとともに、身辺処理の力を高め、よりよい生活習慣を育てている。
- ・「国語」「算数」「音楽」「体育」「図画工作」といった教科別の学習を中心に人やものとのかかわりを広げ、認識の力を伸ばしたり、集団生活に必要なルールを学んだりしている。
- ・「遊びの指導」「生活単元学習」といった各教科等を合わせて行う指導を中心に、体験を通して見通しをもちながら意欲的に活動する力や豊かな感性、情操を育てている。

#### <中学部の教育>

- ・思春期の成長に伴う心身の変化を考慮し友達と助けあいながら主体的に取り組める集団学習を大切にした教育課程を編成している。
- ・「国語」「数学」「音楽」「美術」「保健体育」の教科別の指導を中心に、興味や関心を大切にしながら、満足感や充実感を味わうことで、主体的に生活する態度や意欲を高めている。
- ・人とのかかわりを通して、自分を表現することや仲間とのかかわりを深めたり助けあったりすることの大切さを意識できるようにしている。
- ・「日常生活の指導」「生活単元学習」「作業学習」では、生徒の興味や関心をもとにした体験的な学習を通して、学んだことを実際の生活に生かすことができる力を育てている。

#### <高等部の教育>

- ・これまでの教育の成果を基に、実態に応じた学習グループを編成しながら、個々の生徒の特性に応じた教育課程を編成している。
- ・より豊かで自分らしい生き方ができるよう、産業現場等における実習など体験的な学習を通して、自分自身で卒業後の進路を考え、将来の職業生活や家庭生活に必要な力を身につけることができるようにしている。
- ・体験を通してわかる活動を積み上げたり、活動の見通しや興味関心の幅を広げたりして、主体的に行動する力を育てている。また、仲間と認めあい、ともに楽しみ、協力しあうことで、達成感や自己肯定感を高め、社会参加の力を高めている。